

[卒 業 論 文]

卒論題目のサンプル

(指 導 教 員) 指 導 教 員 教 授

コンピュータサイエンス学部 人工知能専攻

研究室名研究室

学籍番号 C0B22888

工科 太郎

[2025 年 度]

東京工科大学

卒業論文

論文題目

卒論題目のサンプル

指導教員

指導教員 教授

提出日

2025年2月XX日

提出者

学部	コンピュータサイエンス学部
専攻	人工知能専攻
学籍番号	C0B22888
氏名	工科 太郎

2025年度 卒業論文 概要				
論文題目				
卒論題目のサンプル				
コンピュータサイエンス学部 人工知能専攻	氏 名	工科 太郎	指 導 教 員	指 導 教 員 教 授
学籍番号 C0B22888				
<p>本テンプレートは LuaLaTeX 用に調整した東京工科大学コンピュータサイエンス学部の卒業論文フォーマットです。研究の背景、解決したい課題、採用した手法、得られた成果を簡潔に記述してください。必要に応じてキーワードを末尾に列挙します。</p>				

目次

1	序論	1
1.1	背景	1
1.2	目的	1
1.3	論文構成	1
2	関連研究	2
2.1	先行研究の分類	2
2.2	本研究の差別化	2
3	提案手法	3
3.1	課題の定式化	3
3.2	手法の概要	3
3.3	詳細設計	3
4	実装	4
4.1	システム構成	4
4.2	主要モジュール	4
4.3	開発上の工夫	4
5	評価	5
5.1	実験設定	5
5.2	評価指標	5
5.3	結果	5
5.4	考察	5
6	結論	6
6.1	まとめ	6
6.2	今後の課題	6
	謝辞	7

図 目 次

4.1 システム構成の例	4
------------------------	---

表 目 次

5.1 結果の例	5
--------------------	---

第 1 章

序論

本章では研究の背景、課題設定、論文全体の構成を示します。例として、オンラインコミュニケーションにおける体験向上を目標とするケースを想定し、課題の重要性と解決する意義を述べてください。

1.1 背景

対象ドメインの現状や社会的な文脈、既存手法の限界などを整理します。

1.2 目的

本研究が解決する具体的な問題と達成指標を明確に記述します。

1.3 論文構成

各章の役割を簡潔に説明し、読者にロードマップを示します。

第 2 章

関連研究

本章では関連研究・関連技術を整理し、本研究の位置づけを明確にします。

2.1 先行研究の分類

テーマごと、手法ごとなど適切な軸で分類し、それぞれの特徴と限界をまとめます。図表やまとめ表を用いて差分を示すと読みやすくなります。

2.2 本研究の差別化

既存手法に対してどのような新規性・有用性を持つのかを明確に述べます。

第 3 章

提案手法

本章では研究で提案する方法を詳細に記述します。

3.1 課題の定式化

解決したい問題を数式や手順で定義し、入力・出力・評価指標を明示します。

3.2 手法の概要

提案手法の全体像を図やフローチャートで示し、各コンポーネントの役割を説明します。

3.3 詳細設計

アルゴリズム、アーキテクチャ、データ処理フローなどを必要に応じて節分けし記述します。パラメータや実装上の工夫があれば表にまとめてください。

第 4 章

実装

本章ではシステム構成と実装の詳細を記述します。

4.1 システム構成

利用したハードウェア・ソフトウェア、ライブラリのバージョン、依存関係を整理します。図 4.1 のように構成図を置く場合は、画像を `fig/` 配下へ保存してください。

図 4.1: システム構成の例

4.2 主要モジュール

提案手法の要となるモジュールや関数の振る舞いを説明します。

4.3 開発上の工夫

パフォーマンス最適化、エラー処理、再現性を高める設定などをまとめます。

第 5 章

評価

本章では実験方法、データセット、評価指標、結果、考察を記述します。

5.1 実験設定

比較手法、データ分割、実験環境（CPU/GPU、OS、フレームワークのバージョン）を明記します。

5.2 評価指標

定量評価に用いる指標を定義し、算出式や根拠を示します。定性的評価がある場合は手順を説明してください。

5.3 結果

表 5.1 や図を用いて結果を整理します。

表 5.1: 結果の例

手法	指標 A	指標 B
Proposed	0.90	0.85
Baseline	0.80	0.78

5.4 考察

結果の解釈、失敗したケース、今後改善できる点をまとめます。

第 6 章

結論

本章では研究のまとめと今後の展望を述べます。

6.1 まとめ

本研究で達成したことを簡潔に整理します。目的への達成度を定量的に示すと明確になります。

6.2 今後の課題

未解決の課題、適用範囲の拡大、追加実験の計画など、次のステップを記述してください。

謝辞

本研究を進めるにあたりご指導を賜った指導教員、議論に協力いただいた研究室メンバー、評価実験に参加いただいた皆様に感謝いたします。

参考文献

- [1] 猫山 ねこ. リモートビデオ通話を用いた室内飼育猫のストレス低減効果. 猫学会論文誌, 2(2):2–22, 2022.
- [2] Hayato Kajiyama, Akifumi Inoue, and Tohru Hoshi. SHAPIO: Shape I/O Controller for Video Games. In *Proceedings of the 2015 Annual Symposium on Computer-Human Interaction in Play*, pages 565–570, 2015.
- [3] 木下 是雄. 理科系の作文技術. 中央公論社, 1981.